

学校番号	学校名	校長名
64	川崎市立久末小学校	結城 俊一

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>【共に笑顔で輝き合う学校をめざして】</p> <p>○経営方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人一人が互いに尊重し合う学校【共に】</li> <li>2. 確かな学力をつけ、学ぶ楽しさを味わうことのできる楽しい学校【笑顔】</li> <li>3. 仲間と生き生きと健やかに過ごす学校【輝き合う】</li> <li>4. 子どもや保護者、地域から信頼される、開かれた学校</li> <li>5. 子どもや保護者、地域とともに学ぶ教職員</li> </ol> <p>○経営目標</p> <p>めざす子ども像</p> <p>【約束を守る子】【思いやりのある子】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人やものに自らかかわり、その笑顔をさらに広げていく。</li> </ol> <p>【根気よく学ぶ子】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 学びに向かう意欲、考え判断し、解決・表現する力を育てていく。</li> </ol> <p>【体を大切にする子】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 健康を意識し、健康で過ごせる環境に感謝する気持ちを育てる。</li> </ol> <p>私たち大人</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 学校・家庭・地域が協力し、子どもたちをとりまく環境を整える。</li> <li>5. 子どもたちの学校生活の充実のために、教職員の研修・研究を進める。</li> </ol>	<p>めざす子ども像に対応して</p> <p>11に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 気持ちの良いあいさつの日常化を図る。「ありがとう」「ごめんなさい」など、自然に言い合える関係作りを大切に、それが互いの「いいとこ見つけ」に結びつくよう配慮していく。</li> <li>(2) 自分のできることを増やし、仲間と共に活動する場の充実を図る。</li> <li>(3) 学校の約束、学級の約束、先生との約束、友だちとの約束を確認する。</li> <li>(4) 教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみ、いじめの未然防止に努める。</li> </ol> <p>2に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「久末ナビ」を生かし、基本的な学習ルールの定着及び基礎学力の向上をめざし、学ぶ意欲の伸長を図る。</li> <li>(2) 友だちのかかわりを通して、より良い方法を見いだす楽しさや根気よく学ぶ大切さを実感させる。</li> <li>(3) GIGA端末活用を通して、各教科等での学びを繋ぎ、探求し、課題を解決できるようにする。(ステップ3)</li> <li>(4) 朝の読書タイムの充実や読書ノートの活用を図り、本に親しむ心情を育む。</li> </ol> <p>3に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「久末ナビ」を生かした生活習慣の定着を図る。</li> <li>(2) キラキラタイムを通し、運動への関心を高めていく。</li> <li>(3) 学校保健、学校給食を通して健康教育の発展を推進するとともに、友だちの体を思いやる優しい気持ちを育てていく。</li> <li>(4) 交通安全指導、防犯防災指導、勤労生産・奉仕的活動の充実を図る。また子どもたちにとって安心安全な環境づくりを計画的に進める。</li> </ol> <p>私たち大人に対応して</p> <p>4に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域や家庭との連携を大切に、学校の様子を積極的に発信することで、子どもたちへの理解の在り方を共有していく。(コミュニティ会議・学校公開・教育相談・学校説明会・学校報告会・学校HP・小中連携・幼保小連携)</li> <li>(2) 地域の人や環境とのかかわりを大切にする教育活動を大切にし、我が町「久末」で学び、「久末」の良さを伝えていく心を育てる。</li> </ol> <p>5に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもたちの困り感に寄り添うべく、チームによる児童支援活動の推進を図る。</li> <li>(2) 人権尊重教育の日常化を図り、命を大切にすることを育てる。</li> <li>(3) 個に応じた指導を工夫し、個別最適な学びの場の充実を図る。</li> <li>(4) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の研修の充実を図る。(学びを繋ぎ、学びを促進するファシリテーターの役割を意識して)</li> <li>(5) 校内研究【算数】を充実させ、わかる楽しさ、共に学ぶ楽しさを大切にした授業の創造を図る。</li> </ol>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
<p>【約束を守る子】【思いやりのある子】</p> <p>人やものに自らかかわり、その笑顔をさらに広げている。</p>	<p>1. あいさつの日常化を図る</p> <p>2. 縦割り交流活動の推進と充実をめぐる</p> <p>3. 久末スタンダードの見直しと確認をする</p> <p>4. 教育相談の充実と、いじめ、不登校の未然防止対策の充実を図る</p>	<p>1. あいさつをする意味(私たちはここにいるよ、安心して、というメッセージをおくこと)を共有し、教職員自らが率先してあいさつをするを奨励していった。また、児童会も「あいさつ運動週間」を設定し、気持ちのよいあいさつが交わされた。学校アンケートでも約80%の児童から「進んであいさつをしている」と肯定的な回答を得ることができた。一方で学年が上がるにつれ、肯定的な回答率が伸び悩む現状はここ数年変わらない。</p> <p>2. コロナ禍で制限を受けながらの交流活動も制限がとれ、本来のねらいに迫るべく活動ができたことは意義深かった。6年生は最上級生としての責任を果たそうと努力し、年度末には新リーダーとしての5年生にバトンを渡すことができた。この流れを引継ぎ、異学年交流におけるかかわりから多くのことを学んでほしい。コロナ明け間もないということで、まだ、活動の場は教室内に限定されているので、あわせて活動内容もやや固定化されている。</p> <p>3. コロナ禍のルールを見直し、現状と改めて向き合いながら、制限の解除や新たなルールの作成を模索した。子どもたちの順応性はすばらしく、大きな混乱はなかったと感じている。来年度は校庭Pの本格実施なので、対策を講じる必要性を感じている。</p> <p>4. SC,COとの連携を充実させながら、保護者の方々の相談や児童の困り感に寄り添うべく面談の実施を計画的に実施してきた。SCの存在や役割についても、かなり周知されたという実感がある。ただし、SCの来校できる日数が限られているので、すべての面談をタイムリーに実施することができない現状である。</p> <p>「ソナーで探知」を合言葉に、児童の日常観察やアンケートの実施などから、現状の把握に努めてきた。校内では、ケース会議等を定期的に行うことで共有し、組織的対応を心がけてきた。事実が認められた際は、聞き取りを慎重に進め、保護者との迅速な共有に努め対応してきた。また、不登校対策においても、魅力ある学校づくりを進めることで、未然防止に努めた。全ての児童が存在を実感できる「居場所づくり」の大切さを職場全体で共有してきた。</p>	<p>1. まずは、あいさつを含め、言葉の大切さをテーマにし、朝会で年間を通して話していく。掛けられて心が温くなる言葉や気持ちの良いあいさつについて、日常生活の中から取り上げ、自分事として捉えられるように、話の内容を工夫していく。また、学校だけでなく同テーマについての発信を継続していく。児童発信での「あいさつ運動」の効果も感じているので、支援しながら盛り上げていきたい。</p> <p>2. 活動場所を順次、広げていくことでさらに活動内容に創意工夫を見い出させていきたいと思う。教室内に限定していた交流の場所を校庭やアリーナに拡大していくことも考えられる。</p> <p>3. コロナ禍のこの3年間で、久末スタンダードに必要な応じて加筆修正を行ってきた。今後も児童の実態を注意深く見つけ、現状にあったスタンダードの作成に尽力していく。コロナ禍で新しく生まれたルールも検討を重ねながら、できることは継続していく。今までは下校後に開放をしていた校庭を来年度からは下校せず、そのまま使える校庭開放(みんなの校庭P)にシフトしていく。現在も児童会を中心に新しいルール作りを行っているところである。自分たちでルールを作り、運営していく主体的な活動を支援していきたいと思う。</p> <p>4. 年度末から年度始にかけての児童の情報の引継ぎを慎重に行っていく。情報共有、伝達の時間の確保に努める。学校評価アンケートでは「困った時に相談できる」と回答した児童は76%だった。昨年度から12ポイントアップしたが、さらに児童にとって相談しやすい環境整備に尽力していく。</p> <p>SNSを発端としたトラブルがたびたび見られる。スマートフォンの扱いやSNSについては家庭にも協力をお願いしているところではある。カリキュラムの中に情報モラル教育をしっかり位置づけ、継続した指導の充実、徹底を図っていく。不登校の未然防止のために、一層魅力ある教育活動の展開に尽力していきたい。</p>
<p>【根気よく学ぶ】</p> <p>学びに向かう意欲、考え判断し、解決・表現する力を育てていく。</p>	<p>1. 学ぶ意欲の向上を図る</p> <p>2. 主体的・対話的で深い学びの具現化を図る</p> <p>3. GIGA端末の積極的活用を行う</p> <p>4. 読書タイムの充実を図る</p>	<p>1. 学校評価アンケートでは79%の児童が「学校での学習が楽しい」と回答している。また、保護者からも89%の肯定的な回答をいただいた。今後も常に児童の置かれている現状と実態をしっかり把握していく。学習意欲を良い状態を保ち、学びの連続の中で継続し発展させていくことを課題と捉えたい。</p> <p>2. コロナ禍の制限がとれたことにより、学習形態も変わってきた。かかわりを重視した学習形態を各担任が意識することで、対話的な学びの充実につながってほしいと思う。自分とは違った考え方を尊重し合うという意識は高まってほしいと思う。学習してきたことについて自分の言葉で表現するということに関しては今後の課題にしたい。</p> <p>3. GIGA端末活用においては、児童はずいぶん慣れてきて、活用の幅は広がったと実感している。個別最適な学びとしての活用は充実していると思うが、一方でステップ3のねらい「各教科等の学びが他教科等や生活につながる」という観点では来年度以降への課題となっている。</p> <p>4. ここ数年「読書が好き」ということへの肯定的な回答率は伸び悩んでいるのが現状である。司書教諭や学校司書が中心となり、図書環境を整えてきている。週に1回の朝の読書タイムの充実も大きな鍵となっている。</p>	<p>1. 昨年度まで校内研究において(国語)、児童の興味関心をいかに引き出すか、導入の工夫や教材、資料の作成、魅力ある授業展開について考えてきた。今年度は、算数科を通して、授業改善について検討を重ねてきた。今後も研究を通して、さらに魅力ある授業作りに尽力し、児童の肯定的な回答率のポイントアップを目指していく。</p> <p>2. 学びの姿をより深いものに導くためには、自らの学びの姿を俯瞰的に捉えるといったメタ認知の確立が必要だと考える。今後は、学習過程を振り返りながら、今の学びは、どの経験が生きているのか、またどこに繋がっていくのかを理解するための自己評価活動の充実を努めていきたいと思う。</p> <p>3. 校内の情報部会を中心にGIGA端末の授業での効果的活用について考え、共有を図ってきた。他校の実践例も紹介し合い、日々の実践に取り入れていっているところではあるが、来年度は推進校に足を運び、実際の姿を参観する機会を多くもちたいと思う。「各教科等の学びが他教科等や生活につながる」という観点を重点目標として、深化させていきたい。</p> <p>4. 週に一度の読書タイムを充実させていくために、事前に読む本を決めておく、自分の机に準備しておくなど、限られた時間の有効活用について、児童とともに確認していく。また、現在、各自が持つ読書カードに読んだ本を記録しているが、児童間で紹介し合う活動を取り入れることも積極的に行っていきたい。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
3 【体を大切にする子】 健康を意識し、健康で過ごせる環境に感謝する気持ちを育てる。	1. 生活習慣の定着を図る。 2. 運動への関心を高める。 3. 健康教育の推進を図る。 4. 安全な環境作りに務める。	1. 「学校に行くことが楽しい」と回答している児童は77%であった。概ねよい傾向として捉えたいが、一方で否定的な回答も20%あるという実態を真摯に受け止めていく必要がある。 2. 「体を動かすことが好き」と回答している児童は83%であった。学年間で多少開きはあるものの、体育の学習のみならず、休憩時間に元気に体を動かしている様子が多く見られた。 3. 今年度もクラスごとに「保健目標」を決め、年間を通して、意識しながら生活を送ってきた。本校における保健室来校者の傾向や時期、また怪我等の種別や発生源を校内で共有したり、保健だよりで家庭に発信したりすることで、健康な生活に結び付けるようにしてきた。児童会活動において、「安全な学校生活を目指そう」と自主的な取組も見られた。 4. 86%の児童が「安全に気をつけて生活している」と回答している。また「災害時にどう対応したらよいかを知っている」と回答した児童は89%であった。年に6回の避難訓練は様々な想定で実施してきた。常に真剣な気持ちで取り組んでいる児童への価値付けを今後も充実させていく。	1. 前述した「不登校の未然防止」とも重なるところであるが、常に魅力ある教育活動の展開を念頭に、今年度の実践を振り返り、来年度の実践に繋げていく。1日の終わりの振り返り活動を大切に、「明日の登校を楽しみにしながら下校していく」そんな児童の姿の確立に尽力していく。 2. 年間を通して「キラキラタイム」の設定ができなかった反省に基づき、来年度は児童会を中心とした「キラキラタイム」の推進に努めていく。本格実施となる「みんなの校庭P」においても、用具や環境も整えていく。 3. 「健康な生活を送るためにできること」の発信を児童たち自らがやっている現状の取組を今後も大切にしていきたい。集団生活をしている以上なかなか防ぐことができない怪我はあるが、学校のルールを基にした指導の継続、学校環境整備も日々、十分に気を付けていく。 4. 避難訓練で学んだことを、学校外でも生かしていけるよう、また非常時の対応に繋いでいくことができるような視点を今後も明確にしていく。登下校における安全確保については、現在「下校時パトロール」を保護者の方々にしていただいている。そこで気付かれたことの共有をさらに学校も情報として積極的に受け取りにいく。また、悪天候時や不審者情報等に対応して、教職員のパトロールも今後も継続し、地域との情報共有の充実にも努めていく。
4 学校・家庭・地域が協力し、子どもたちをとりまく環境を整える。	1. 家庭や地域との連携を大切にす。 2. 「久末」で学び、「久末」の良さを伝えていく。	1. 年間を通して児童の学校生活の様子を家庭に知っていただくこと、学校HPの定期的な更新を行ってきた。月に一度の学年ページの更新や日常の様子紹介(このページは不定期となったが、昨年以上の更新回数となるよう努めてきた)また、久末コミュニティ会議や小中連携でも本校の取組を伝えることで連携の充実を図ってきた。学校説明会や報告会などでは、保護者の方々の出席率をさらに上げていくことで、児童理解の在り方の共有を進めていくことが急務と考えている。 2. 各学年における栽培・収穫活動は、地域の方々のご指導をいただきながら継続して行っている。児童の多くが「久末の自然、新鮮な野菜が自慢」と答えている。そこに関わってくださる地域の方々との交流も継続し、我が町久末に愛着をもち、地域でのびのびと育っている様子がうかがえる。	1. 学校HPにおいては今後も、校内組織に位置付け、定期的かつタイムリーな更新に繋げていく。また、ペーパーレスの推進を図るために、来年度から学校だよりと学年だよりを一本化し、データ配信にしていく予定である。データ配信のメリットを存分に生かしながら、学校への関心をさらに高めていけるように尽力していく。 2. 栽培活動に限らず、地域の方々に見守られ、愛されていることを、様々な教育活動の中で実感させることが大切だと思う。生活科や総合的な学習の時間、道徳など、指導者がしっかりと視点をもちながら、授業を進めていくことの共通理解をしっかりとしていきたい。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
5	<p>子どもたちの学校生活の充実のために、教職員の研修・研究を進める。</p> <p>1. 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の研修の充実を図る。 2. 学年教材研究、交換授業を充実させ、指導と評価の充実を図る。</p>	<p>1. 評価の在り方、学級作り、防犯等の研修を実施してきた。評価の在り方や学級作りについては、校内で進め、防犯研修は区役所、警察の方に来ていただき、実技指導を受けた。研修を日々の実践に繋げていこうとする意欲が高まった。また、今年度から始まった「算数科を通しての校内研究」についても、外部講師をお招きし、本校の実態にあった研究の進め方について指導を受けた。授業提案を4回実施し、全員で参観し、研究を進めてきた。児童の実態を踏まえた学習展開の工夫についての共有や検討を行っている。</p> <p>2. 学年会において、皆で教材研究を進め、共通の目標に向かっての手段や手だての共有の推進に努めていった。各々の経験やアイデアを生かしながら、児童にとって魅力ある授業展開を考えていくことができたと思っている。また高学年における交換授業は年間を通して実施し、児童理解の充実に関がった。来年度も実施していこうと考えている。</p>	<p>1. 学校における今日的な課題は多岐にわたることを鑑み、研修内容の吟味は早い段階で必要となってくる。必要と思われる内容の集約を年度当初にすくに行い、関係諸機関との連絡を急ぎたい。また、評価の在り方、学級づくりにおける研修は来年度も継続していく。</p> <p>2. 学年によって異なるが現在、体育、音楽、図工、書写における専科指導を行っている。一人の児童に複数の指導者が関わることで、児童理解を深めていくことに繋がっている。交換授業と併せて、体制の確立と日々のフィードバックの充実に関がらも尽力していきたい。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○久末コミュニティースクール会議</p> <p>6月の久末コミュニティースクールでは、今年度の経営方針について説明し、授業参観を通し、委員の皆様へ教育活動への理解を求めた。その場では、6年生運営委員会の児童が今年度の取組の重点やスローガン等を発表した。また、2月には、学校評価アンケート結果を元に、ご意見をうかがった。ここでは、運営委員会の5年生が1年間を振り返り、来年度の抱負を述べた。児童が工夫しながら学校生活を過ごしていることへの評価をいただき、励みとなったところである。児童もこの場での委員の方々とのふれあいを楽しみにしている様子がよくわかる。そんな児童へ愛情たっぷりに関わってくださる委員の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいである。</p> <p>東橋中学校区コミュニティースクールでは、6月に今年度の学校経営計画及び児童の実態を踏まえ、今年度の重点目標についての説明を行った。また、子母口小学校の授業参観を通して、児童の実態について共有をはかり、地域で育つ子どもたちの見守りや支援への共通認識を固めた。今年度も学区の中学校に通う生徒の姿から、近い将来のイメージができた。</p> <p>○学校評価アンケート結果を全教職員で分析、検討を行った。そこから見えてきた課題は前述してきたところである。今後も、学校教育目標の「笑顔で輝き合う」にスポットをあて、取り組みを続けていきたい。その実現のために、これまでも「言葉」を大切にしたいと、児童には話してきた。この観点については、来年度も年間を通して児童とともに考えていく。今後も研修研鑽に努めて、教師の授業力向上及び学習意欲の向上に繋げていくことが急務である。</p>	<p>○5月にコロナが5類に移行され、教育活動の制限が大幅に解除されてきた。ただ単に「元に戻す」という意識ではなく、これまでの子どもたちの取組や頑張りや価値づけることを忘れないようにしたい。コロナ禍で経験した取組の中で、今後も有効的に働くことは継続していこうと、全教職員で共有してきた。運動会や卒業式の実施にあたっては、この共有が生かされたことと思っている。</p> <p>○児童理解・児童指導を次年度も重点項目として取り組み、担任を中心として「いじめの早期発見」につとめたり、児童一人一人の思いをしっかりと受け止めた学級・学年経営を行えるよう学校全体で共通理解を図り、推進していきたい。</p> <p>○今後とも教育相談を有効的に機能させ、不登校対策を学校全体でチーム対応を行う。さらに、支援教育COを中心に、児童理解の研修やケース会議を通して、児童一人ひとりに寄りそった支援の在り方を充実させていく。家庭へ連携を呼びかけつつ、必要に応じて区教育担当や児童相談所など外部機関と一層連携し、個々のケースに迅速且つ親身になって対応していきたい。</p> <p>○本校の課題である基礎学力向上のため教師一人ひとりが授業力を高めていく。来年度も引き続き算数科を通して研究を進めていく。児童の興味関心を高め、その意識が継続するような学習展開に重きを置きながら研究を進めていく。</p> <p>○GIGAスクール構想においてはステップ3の進化を目指していく。端末の持ち帰り、家庭での活用を含め、情報モラル教育の充実については、引き続き重要視し、家庭との連携を図っていく。</p> <p>○教育活動の目的を理解し協力して頂けるよう、学校説明会や懇談会等で理解を求めたい。より多くの保護者の方に学校に足を運んでいただけるように、学校として努力を続けていく。さらに今後とも児童の様子が見える「開かれた学校」を目指し、HPなどを通して情報を発信していきたい。</p> <p>○学校評価の結果から、児童の育ちについて振り返ってきた。今一度、学校教育目標とめざす子ども像、そして身についた力の分析をしっかりと行い、さらに創造的な活動が展開できるように見直していきたい。</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の一層の充実を図り、今後も、研修会等を行い、考え方や進め方について学んでいきたい。川崎市制100周年を児童とともに祝い、その節目にここに生活している喜びを感じられるように、また「わがふるさと川崎」への愛着が深まっていくよう、関係諸機関や近隣校との連携を図っていく。</p> <p>○地域の支えがあつてこそ、日々の教育活動の充実に関がっているということを再認識しながら、地域との連携をさらに充実させていきたい。</p>